



強父論

九十四歳で大往生。瞬間湯沸器だった父、阿川弘之に罵倒されること何千回。理屈より感情が先立ち、男尊女卑でわがままで、妻や子供には絶対服従を求め、常に自分が中心でありたい。故人をまつたく讀えない「父と娘」の記録。

阿川佐和子 著 (文藝春秋)



ずうのめ人形

オカルト雑誌で働く藤間は、同僚から都市伝説にまつわる原稿を託される。それは一週間前に不審死を遂げたライターが遺したものらしい。原稿を読み進め、「ずうのめ人形」という都市伝説に触れたとき、怪異が始まる。

澤村伊智 著 (KADOKAWA)



(0~5歳児向け)

新しい町に引っ越してきた、はおは、散歩に出かけました。次々に出会う近所さんたちは、みんないいひと。でも、どんどん予想もしない展開になって。ユーモアあふれる楽しい絵本。

児童書

たのしいひっこし

岡田よしとか (小学館)

9/30 図書室 休館のお知らせ

資料整理のため、9月30日(金)は、図書室をお休みします。

10月1日(土)からは平常どおり利用できます。

問合せ 社会教育センター 図書室 28・5449



豊山俳句クラブ

青山克己 選

背を丸めたりし農夫や草茂る 安藤春一

旧街道夏へと辿る川がある 青山とも子

太陽の噴きこぼれたる猛暑かな 水野真弓

「あら素敵」傘に紫陽花色かさね 谷崎 琴

遠花火届いた手紙未開封 高木須磨子

黄昏れて風の転がる青田かな 田村多喜子

釣り人も景色となりて鮎の川 坪井昭子

豊山歌壇

水野笑子 選

痛む足かばひて歩む道の辺に 鈴木弘香

飼犬との散歩コースの温室棟 中澤芳子

くさぐさの病を持ちて生きてある 水谷弘子

若葉の五月今日八十三歳 水野勝代

新緑の萌えて光れる熱田の森に 新しき神の舞ひ降りること

紫陽花に音なく雨のこぼれけり 杉浦みどり

梅雨晴間話好きなる叔母の葬 村上ゆり子

とめどなく水の音して青田風 小塚美枝

一瞬の一瞬深き昼寝かな 石黒貴代子

立ち話両手いっぱい夏野菜 杉本衿子

大胆に優雅に夏の蝶横切る 坪井径子

万緑の中に吐息のうすみどり 岡島 齋

漠然とある炎天の一輪車 青山克己

歳重ね余生楽しく歩みたし 水野恵子

肉眼に見ゆる火星はトマト色 村上 一枝

米寿とふ思ひもかけぬ喜びに 山田 米

疲れし日庭の花々咲きはこり 渡辺トヨ子

五月とてさはやかからはほど遠し 安達洋子

春先の天候不順を思ひ出す 荒川昌枝

花を忘れし老爺柿なる

編集後記

ACミランといえば、イタリアを代表するプロサッカーチームであり、世界屈指のビッグクラブの一つである。その古豪が来年二月に本町でサッカースクールを開催する。ACミランも共鳴する理念を持つ財団法人「地球子ども村」である。松浦恵子代表理事は以前、障がい者を受け入れる愛知県サッカー大会に出られない、発達障がいの子どもたちや在日外国人のサッカークラブのために「子どもワールドカップ」を開催していたところ、その活動がACミランの目にとまり、提携が始まった。地球子ども村と松浦理事の活動の根幹は、障がい者と健常者がお互いを区別することなく、社会生活を共にする「ノーマライゼーション」の実現なのである。地球子ども村は、社会福祉センターも運営しており、一般企業への就職が困難な精神障がい者に就労機会を提供している。ACミランサッカースクールの受付事務などもその一つである。▼松浦理事は、障がい者にとつてもっとも大きな障がいは、無知や無関心ゆえの区別や差別をされること、とおっしゃる。九月は知的障がい福祉月間でもある。本町の健康・福祉フェスティバルでは、福祉作業所の製品も販売される。障がい者への理解を深める契機にしたい。